現代生物学ゼミナール報告（1983）

研　修　部

第120回 岡崎国立共同研究機構見学　58. 7. 25

（第７回　科学施設セミナー）

この研究所は昭和50年に設立された分子科学研究所と，昭和52年に設立された生物科学総合研究機構（基礎生物学研究所・生理学研究所）を合わせて昭和56年４月に設立した非常に新しい生物学の研究所である。名古屋から約30分，岡崎市の小高い丘の上にある一群の建物は，その１つを見学するだけでも丸１日は要する。今回はこの施設の紹介の意味で，基礎生物学研究所と生理学研究所の２つをほんの表面だけを見学した。この研究所の見学は個人では無理であるが，毎年11月には一般公開が行われるので，その少し前に直接研究所に問い合わせて見学されるのがよいでしょう。電話（0564）54―1111

なお，見学会の報告は'83高校部会誌に掲載予定です。

（安房）

第121回 植物の見かた・見せかた（お母さんの自然学習室）―発明・発見の芽を育てよう―

神戸市立神戸西高校　渋野龍二

第10回　兵庫県生物学会公開講座　59. 1. 14

放　神戸市立勤労会館

教育植物園に勤務した３年間の体験から，テレビにかじりついている子や，学校と塾への道しか知らない子どもたちに，ほんものの自然の面白さを，教えてやりたくて，どうしたら子ども本来の行動力や好奇心を呼び起こせるか，お母さんたちと一緒に考えて見たいと思います。

最近の，小学校でのことですが，カボチャの種を播いてその成長を観察させようとしたところ，「何だ，カボチャか。テレビで見たよ。」といった具合に，全く興味も関心も示そうとしなかったそうです。何か月もかかる面倒な観察をテレビでは，30分か40分の間に手際よく整理をして見せてくれるので，「それならテレビで見てしまったよ。種を播いても同じ結果なんでしょう。」というわけなのです。

そこで，同じカボチャの種を子どもたちに見せて，「さて，これは何の種だろう。発芽の様子や，実のできるまでみんなで観察しよう。」というと，カボチャの種を知らない子どもたちは大変興味を示して，観察をはじめたのだそうです。

まるで手品のように，小さな種子から大きな芽が出てくるのは，驚きだったでしょうし，目に見えて肥大するカボチャの成長ぶりに，目をみはったことでしょう。テレビの画面ではなく，ほんものに触れる直接の体験が，子どもの心を大きくゆり動かしたに違いありません。このような感動の経験が積み重なって自然への興味や親しみが生れてくるのではないでしょうか。

草や木の名前を知らなくても，野や山に出かけた時，お母さんの，「わぁ，きれいな花」の一言が，子どもの心の中にある，自然に対する好奇心の小さな芽を育てていくのです。お母さんの豊かな感受性で，子どもの心をゆり動かしてやりましょう。

今日のお母さんの自然学習室では，先ず何より，お母さん方にネイチャー・ショックを与え，その波紋を子どもさんたちに拡げていただけたらと考えております。

＝新刊紹介＝

書　名　**日本の植生図鑑（全２巻）**

Ⅰ　森林　　Ⅱ　草原・人里

執筆者　Ⅰ 中西　哲　大場達之　武田義明　服部　保

Ⅱ 矢野悟道　波田善夫　竹中則夫　大川　徹

発行所　保育社

定　価　各巻　3,０００円

内　容　Ⅰ 1. 森林の植生

2. アカマツ・コナラ林の植生と植物

3. シイ・カシ林の植生と植物

4. ブナ・ミズナラ林の植生と植物

5. オオシラビソ・エゾマツ林の植生と植物

6. ハイマツ群落と低小草原の植生と植物

7. 日本列島の植物相

8. 植物の生活形

9. 植生調査法

Ⅱ 1. 人里・草原の植生

2. 家の周りの植生と植物

3. 水田や畑の雑草植生と植物

4. 草原の植生と植物

5. 湿原の植生と植物

6. 水辺の植生と植物

7. 海辺の植生と植物

8. 植物社会の移り変わり（遷移）

9. 植物生態用語集